

## 『クリスチャンとして成熟していくために』 '20/06/21(ライブ礼拝) 聖書箇所: II テモテへの手紙 2 章 1-6 節(新約 p.380) 父の日

いよいよ、礼拝再開の日程が決まりました！今から2週間後の7/5です。その日から、八田西 CC では、新型コロナウイルスの感染に最大限の注意をして…、また、皆さんと一緒に礼拝を捧げていきたいと思えます。どうか、もうしばらくだけ、ガマンをしていただいて、今日も、心からの感謝を込めて、精一杯の礼拝を、私たちの神様に捧げたいと思います！まずは、ゴスペルの「叫べ、全地よ」です。

### <メッセージ>

今日は6月の第3日曜日ということで、世間一般的には、「父の日」であります。皆さんも、ご存知のように、今、日本の家庭は様々な問題を抱えています。家庭内暴力に虐待…、できちゃった婚や離婚問題…、犯罪の低年齢化に引きこもりなど…。実に、多くの家庭が、神様のみこころから離れてしまって、その結果、出口の無い迷路の中をさまよっているような状態です。

つい先日、「23歳の大学生が、自分の祖母と母親、実の弟とおばさんを、ボウガンで撃って、その内3人を死に至らしめる…」というような痛ましい事件がありました…。また、少し前には、ある有名なお笑い芸人が、多目的トイレで不倫をしていたとして、大きく報道されました。こういった事件？は、一部の心無い者たちだけのものなのでしょうか？

### 命題: 私たちが、より成熟した大人・クリスチャンとなっていくために…

神様からのお言葉である聖書は、こう教えます…、「私たち人間が、造り主であられる神様を忘れ…、その神様から離れてしまった、その先に祝福は無い！本当の満足や幸せは訪れない！」って…。特に、ローマ書1章の後半辺りがそうです。しかし、最高の愛で満ちておられる、私たちの神は、そんなことを望んでおられません。だから、神は、私たちに、この聖書のみことばを通して、私たちの歩んでいくべき道を示してくださっているのです。

「父の日」である今日は、この礼拝を視聴してくださっている皆さんが、益々、この神様の前に正しく成長していくことができるように…ということ、今日のみことばを選ばせていただきました。神によって、成熟させられたクリスチャンとは、どのような者なのでしょう？そして、私たちは、どうしたら、そのような成熟したクリスチャンとなっていくことができるのでしょうか？そういったことを、今日は、皆さんとご一緒に学んでいきたいと思えます。どうぞ、今日の聖書箇所である、II テモテ 2:1-6 をお聞きください。

### I・教師のイメージ⇒よく学び+学んだことを教える！(1-2 節)

ここ II テモテ 2:1-6 で、パウロは、4つのイメージを挙げることによって…、自分の教え子にも等しかったテモテが目標とすべき、より成熟したクリスチャンの姿を、その特徴と共に説明してくれています。その1番最初に挙げられているのが、「教師」のイメージです。今日のみことばの内、1-2 節をお読みします。

- 1 そこで、わが子よ。キリスト・イエスにある恵みによって強くなりなさい。
- 2 多くの証人の前で私から聞いたことを、他の人にも教える力のある忠実な人たちにゆだねなさい。

#### ●『強くなりなさい』という命令

ここ1節で、パウロは、この手紙の宛先であった、テモテに対して、『わが子よ。』と呼びかけています。…と言いますのも、実は、このテモテという人物は、パウロにとって、血の繋がった子どもでは無いですが、非常に近い人物であったからです。テモテは、パウロから直接、同労者(=共に、キリストのために働く

者)に選ばれ、それからパウロが殉教するまでの10年以上の多くを、パウロと共に行動したと考えられています。実は、13通あるパウロ書簡の内の6通に、テモテは「共同執筆者」というような感じで名前が挙がっています。恐らく、目が悪かったとされている(ガラテヤ 6:11)パウロの代筆を、テモテが担当していたのだらうと考えられています。それほど、パウロとテモテとは、一緒に、様々な働きをしていたのです。

また、テモテのことを語る上で、決して無視できない事柄があります。それは、テモテの精神的な弱さ…、そのテモテに与えられた働きの大きさです。この手紙が書かれた当時、恐らく、テモテは30歳代であったと思われます。この手紙が書かれる少し前…、恐らく、4-5年程前に書かれたと思われる、I テモテ 4:12 には、『年が若いからといって、だれにも軽く見られないようにしなさい。』というような…、まだまだ、若輩者であったテモテに対する、パウロからの励ましがあります。ここの箇所から窺い知ることができるのは、テモテの年齢が一般的には若かったということ…、彼が、『軽く見られ(る)』ような傾向にあったということです。また、それだけではありません。I テモテ 5:23 には、『これからは水ばかり飲まないで、胃のために、また、たびたび起こる病気のためにも、少量のぶどう酒を用いなさい。』というようなアドバイスもあって…、恐らく、テモテが精神的なストレスから来るような、胃や腸などといった消化器系の疾患(=病気)を患っていたと思われます。

そのようなテモテに対して、パウロはこう命じます、『強くなりなさい！』って…。それは、言い換えれば、「変わりなさい！成長しなさい！」ということです。いいです、皆さん。私たちは、このままではいけないのです。弱いまま…、未熟なままであってはいけないのです！このままではなく…、強くなっていく必要があるのです！私たちは、人間としても…、また、クリスチャンとしても成長していかないとならないのです。

実は、ここの箇所は、日本語では分かりにくいのですが、原語であるギリシャ語を観察してみますと、「強くなる、強める、力で満たす…」という意味の動詞(ἐνδυναμῶ)が、受動態で書かれています。つまり、「自分自身の力で強くなりなさい！」というのではなく、「強く“されなさい！”」ということなのです。

では一体、テモテは、どのようにして強えられるのでしょうか？⇒そのことを、パウロは、こう言います、『キリスト・イエスにある恵みによって…』、と…。つまり、神であるイエス様が、テモテを強くしてくださると、パウロは教えるのです。…と言うのも、パウロは、もう既に、そのことを自分自身で経験していたから…。パウロは、先にテモテに送った手紙の中で、こう教えています。ちょっと、皆さん。少し前に学んだ I テモテ 1 章をご覧くださいませ？ I テモテ 1:12、『私は、私を強くしてくださる私たちの主キリスト・イエスに感謝をささげています。』って…。続く 13 節に書かれてあるように、かつてのパウロは、『神をけがす者、迫害する者、暴力をふるう者…』でした。しかし、そんなパウロでも、神の『あわれみ』によって変えられたのです。14 節には、何とあります？『私たちの主の、この恵みは、キリスト・イエスにある信仰と愛とともに、ますます満ちあふれるようになりました。』⇒ここでも、今日の箇所の1節と同じ、『恵み…』という言葉が出てきました。つまり、神様のお働きのおかげで、自分は大きく変えられた…、という話をパウロはしているのです。しかも、その変化(=成長)は、『キリスト・イエスにある信仰と愛とともに…』とあるように、私たちがイエス様を信じた、その瞬間から始まっているのです！

どうぞ、皆さん。その少し後の、16 節をご覧ください。『しかし、そのような私があわれみを受けたのは、イエス・キリストが、今後彼を信じて永遠のいのちを得ようとしている人々の見本にしようと、まず私に対してこの上ない寛容を示してくださったからです。』⇒ここで、パウロは、自分だけが特別な存在だと語っています？それとも…、自分と同じことが、他の者にも起こる！と話しています？明らかに、後者ですね！間違いなく、パウロを変え…、パウロを強くしてくださった神様は、このテモテだけでなく、同じように、イエス・キリストを信じる者を変え…、強くしてくださる！成長させてくださるのです！

だから、パウロは、1 コリント 3:6-7 で、こう訴えるのです。『6 私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。7 それで、たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。成長させてくださる神なのです。』⇒良いですか、皆さん。神様は、パウロだけじゃない…、当然、テモテだけでもない…、私や皆さんのことだって、強くしてくださるのです！ 私たちはもっともっと成長できるのです！

でも、私たちの成長には、あなた自身の選択…、つまり、皆さんの意志が必要です。…じゃなかったら、どうして、パウロが、『強くなりなさい！』なんていうことを、命令形で、テモテに命じるのでしょう…。まず、私たちに必要なのは、私たち自身が願うことです。「私は、もっと成長したい！ 強くなりしたい！」って…。

「イエス様を信じたら、後は勝手に…、それこそエスカレーターに乗っているような感じで、何もしなくても成長させられる…」残念ながら、そういったようなことを、この聖書のみことばは教えてはけません。もし、そうなら、どうして、聖書の中に数多くの命令や勧め…、また、多くの警告などがあるのでしょうか？ もし、神様が、それこそ、すべて自動的に、私たちに働きかけて、私たちを成長させてくださるなら…、そこに、私たちの選択や意志というものが“全く必要ないなら”…、聖書の中に、数多くの命令や勧めなど必要無いはずですよ。また、神様が、私たちの行動や選択に対して、責任を問われるなんていうのは、全くナンセンスなのではないでしょうか？ だって、全ては神様のなされたことであって、そこに、私たちの選択や意志などというものは、一切、反映されていないわけじゃないですか！？

でも、実際は、そうではありません…。神様は、私たち人間に、「自由意志」というものを与えてくださいました。だから、私たちに選択の自由があるのです！ それ故に、神は私たちに問われるのです！ 「神のみこころは、こうですよ！ あなたはどうしますか？」って…。

先程も言いましたように、ここ1節には、『キリスト・イエスにある恵みによって…』とあります。確かに、神が強くしてくださる…、成長させてくださるというのは、神様の恵みです。神からの贈り物です。…でも、皆さん。救いについて考えてみてください。救いも同様に、神からの恵みですよ？ でも、その人が、「自分は救われたい！」と願わないで、果たして、その人が救われるのでしょうか？ 「自分には、救いなんて…、神なんて必要ない！」とおっしゃる方が救われますか？ ⇒救われませんか？ その方が、まず…、「自分には、神様が必要だ！ 自分には、罪の赦しが…、救いが必要だ！」と気づき、そのことを願わないと救いは与えられません。確かに、救いは、神様からの恵みであり、キリストの贖いの故に、無償で与えられます。しかし、それには、そのことを願わないといけないのです！ 同様に、主にある成長も、私やあなたが、まず、そのことを願わないでは与えられないのです…。

### ● 良い教師の条件

どうぞ、今日のテキストである、II テモテ 2:2 に戻ってください。『多くの証人の前で私から聞いたことを、他の人にも教える力のある忠実な人たちにゆだねなさい。』⇒確かに、ここには、「教師」という言葉こそありませんが、ここでイメージされている内容は、教師そのものです。それも、ここで教えられている内容を見てみますと、「ある特定の教師だけが一方的に教える…」というのではなく、「教えられた者が、今度はまた、別の者に教えていく…」という関係が、延々と続いていくような様子を描いていることが分かります。…ということは、つまり、私たち全員が教師のようなことを実践していかないといけないのです。

### ① 勤勉・熱心な者！

良い教師とは、勤勉かつ熱心な者でなくてはなりません。何故なら、教師という者は、自分の教えるべき内容を、まずは、しっかりと学ばなくてはならないからです。私たちは、みことばを…、また過去の先人たちから受け継いだものを、まず、熱心に学んでいく者である必要があるのです。

### ② 正しく伝える！

次に、良い教師とは、その、学んだ内容を正しく伝えていく必要があります。事実をそのまま、生徒（あるいは、弟子）に教えていくのです。この個所で出てくるテモテは、神様から直接、啓示をいただいたパウロから教えを聞きました。今度、そのテモテは、自分が聞いた、その教えを曲げることなく…、当然、削ることも、付け加えることもせずに…、信仰の後輩たちに、それを正しく伝えていったのです。

### ③ 他人を正しく導く！

3つ目に、良い教師は、他人を正しく導く者でなければなりません。先程にも、お話しした通り、このような…、教師が次に続く教師を育てていくという関係は、イエス様が私たちを迎えに来てくださるまで、ずっと続いていくものです。それ故に、私たちがこの教えを『ゆだね(る)』者たちは、他の人にもこの福音を正しく伝える者…、言い換えれば、『忠実な人』でなくてはならないのです。私たちは、自分の教えるべき内容に注意を払う必要があるばかりでなく、自分が教えを託す…、その相手の人物にも気を配り…、彼らを正しく導く者でなければなりません。

どうか、皆さん…。「私は、教師でないから…」と思わないでください。ここでは、所謂、教会の職務としての教師、つまり、牧師や宣教師のことを話しているのではありません。神によって救われた…、すべてのクリスチャンたちを指して、教えられているのです！ だって、イエス様は、ご自分が昇天される際に、弟子たちに何とおっしゃられましたか？ ⇒ マタイ 28:19-20、『19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを受け、20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。』⇒このように、救われた皆さんに与えられた務めは、一人ひとりが弟子を作っていくことです！ そうして、彼らを教えていくことなのです！

救われて…、霊的に成長したら、すべての者が教師…、所謂、牧師や長老になるものではありません。ヤコブ 3:1 に、『私の兄弟たち。多くの者が教師になってはいけません。…』とあるように、みことばは、明らかに、そういったことに警告を発しています。しかし、ここで教えられているのは、先に救われた者が、後に救われた者を教導していく…、年長の者が若い者を教えていく…、すべての親が子どもたちを教える…、というようなイメージなのです。果たして、皆さんは、このような教師となっておられるのでしょうか？ 教える…、あるいは、人を導いていく…、フォローしていくという…、皆さんに与えられた務めを、日々、実践してくださっているのでしょうか…？

## II・立派な 兵士 のイメージ⇒苦しみ+責任感！（3-4 節）

2つ目のイメージは、「兵士」です。しかも、ここでは、ただ、『兵士』とあるのではなく、『りっぱな…』という言葉が添えられています。主にあって成熟したクリスチャンとは、まるで、立派な兵士のような者である、と言うのです。そこに伴うものは、兵士という働きから来る苦しみと、必ず目的を遂行するのだ！ という強い責任感、使命感ではないでしょうか。今日の個所の、3-4 節をお読みします。

3 キリスト・イエスのりっぱな兵士として、私と苦しみをともしてください。

4 兵役についていながら、日常生活のことに掛かり合っている者はだれもありません。それは徴募した者を喜ばせるためです。

### ① 苦しみを受けることをいとわない！

3 節で、パウロは、『私と苦しみをともしてください…』と、テモテに願います。その直前に、『キリスト・イエスのりっぱな兵士として…』とあるように、ここで言われている、『苦しみ』とは、信仰ゆえの苦しみであることは明らかです。

しかし、信仰ゆえの苦しみとは、一部の者たちにしか起こらないのでしょうか？⇒みことばは、それは教えませんか？Ⅱテモテ 3:12 には、何とありますか？『確かに、キリスト・イエスにあつて敬虔に生きようとする者はみな、迫害を受けます。』⇒このように、みことばは、はっきりと、「誰であろうと、もし、その者が、神の前に正しく生きようとするなら、必ず迫害を受ける」ということを約束しています。「信仰を持ったら、何の問題もなくなって、人生がバラ色になる…」なんていうメッセージとは、正反対のものです。

良いですか、皆さん。もし、皆さんが、私たちの救い主である、イエス様に従って生きていこうとされるなら、間違いなく、そこには何らかの試練や問題…、周りとの摩擦といったものが起こってきます。それは、残念ながら…、この世というものが、神様に従わず、むしろ、神様に逆らっているからです。イエス様は、ヨハネ 15 章で、こうおっしゃっておられます。ヨハネ 15:18-21、『18 もし世があなたがたを憎むなら、世はあなたがたよりもわたしを先に憎んだことを知っておきなさい。 19 もしあなたがたがこの世のものであったなら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではなく、かえってわたしが世からあなたがたを選び出したのです。それで世はあなたがたを憎むのです。 20 しもべはその主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害します。もし彼らがわたしのことばを守ったなら、あなたがたのことばをも守ります。 21 しかし彼らは、わたしの名のゆえに、あなたがたに対してそれらのことをみな行ないます。それは彼らがわたしを遣わした方を知らないからです。』

⇒このように、私たちが信仰の故に受ける苦しみや困難は、実は、すべて、イエス様が経験されたものなのです。痛み…、裏切り…、冷たい視線や無関心といったもの、さげすみ、愛する者との断絶、親しい者が滅びに至っていく悲しみ…、そういったものは全て、私やあなた以上に、イエス様がもう既に経験されたことなのです！しかも、イエス様が、そのような苦しみを経験されたのは、イエス様自身の罪や弱さなどが原因ではありませんでした…。それは、私やあなたを、罪から…、永遠の裁きから救うためであったのです！

私たちも、そのキリストを愛し…、キリストに従うが故に…、キリストに忠誠を誓うが故に…、苦しみに伴うのです！成熟したクリスチャンとは、そのような苦しみを受けることをいとわずに、大胆に、主に従っていく者です。無論、それは、パウロたちも同様でした。だから、ここ 3 節には、『私と…ともに…』という言葉があるのです。

### ② 全身全霊をかけて、任務(使命)を全うしようとする！

続く 4 節には、『兵役についていながら、日常生活のことに掛かり合っている者はだれもありません。』とあります。これは、「通常の日常生活を送ってはならない！」とか、「一切の交友関係を絶ちなさい！」ということではありません。これは、兵士が、自らに与えられた任務(=使命)を全うするために、それこそ全身全霊をかけて、自分自身を整えるということです。立派な兵士たる者は、自分に与えられた任務を遂行するために、任務期間中は、その任務に邪魔なものや関係のないものを遠ざけようとします。例えば、立派な兵士は、自分に与えられている任務の故に、すべてのことを自制して…、すべてのことを、戦の勝利のために集中しようとしてしまうでしょう？

同様に、私たちも、『キリスト・イエスのりっぱな兵士として…』、与えられた任務を、まずは、しっかりと、覚えることです。「一体、自分は、何のために救われ…、今、生かされているのか…。神は、私を用いて、何をなさそうとしておられるのか？神様のみこころは、どこにあるのか？」…そういったことを、私たちは、まず、しっかりと覚え、そのために、余計なもの…、必要でないものを、排除していく必要があるのではないのでしょうか？今、皆さんがお持ちの…、趣味や娯楽、時間の使い方、ある時には、皆さんに悪い影響を与えるあらゆるものを、皆さんは、しっかりと吟味し…、それらを排除していく必要があるのです。

### ③ 主人を喜ばせようとする！

また、主にある立派な兵士は、勇敢で…、責任感に溢れているだけではありません。主のために…、神様を喜ばせるために…、勇敢であろうとし、責任感をもって、主から与えられた任務に就くのです。

かつての、私たちの生き方…、生きる目的は、自分を喜ばせるものでありました。言わば、自己中心でありました。しかし、救われた後の私たちクリスチャン…、もっと言えば、成熟したクリスチャンは、そうではありません。私たちが召し出してくださったお方…、私たちをこの働きに徴募してくださったお方(=神様)を喜ばせるために働き…、歩いていこうとするのです。与えられた任務を忠実にこなすことによって…。

今日は、時間の関係上、聖書は開けませんが、このことは、マタイ 25:14 以降に書かれてある、「主人からタラントを預かったしもべたち」の話にも通じます。5タラント、2タラントを預かったしもべに対して、主人が言った言葉は、『よくやった。良い忠実なしもべだ。…』(マタイ 25:21,23)というものでした。しかし、1タラントを預かっただけで何もしなかった、しもべに対しては、何と言われたでしょう？⇒『悪いなまけ者のしもべだ。…』(マタイ 25:26)というものでした…。この違いは、能力の違いではありません。与えられた賜物や環境の違いでもありません。主に対する忠実さの違いです。これまでも見てきましたように、生き方の違いです。だからこそ、彼らは、その行く先が…、つまり、永遠を過ごす場所が違うのです…。

皆さんは、神様から見て…、『良い忠実なしもべ』でしょうか、それとも、何らかの苦しみや余計な責任に伴うことを嫌うが故に…、『悪いなまけ者のしもべ』となることを選ばれるのでしょうか？どうか、お一人お一人が、しっかりと、自分自身を吟味してみてください…。

## Ⅲ・ 競技者 のイメージ⇒努力+ルールを守る！(5 節)

3 つ目のイメージは、“競技者”です。今で言えば、スポーツ選手をイメージすれば良いでしょうか…。

みことばは教えます、成熟したクリスチャンとは、まるで、スポーツ選手のようなものだ、と…。

5 また、競技をするときも、規定に従って競技をしなければ栄冠を得ることはできません。

### ① 懸命に、努力する！

実は、ここで、『競技をする』と訳されている動詞(ἀθλῶ)は、他に、「争う、闘う…」といったような少々戦闘的な意味も含まれています。また、それら全てに共通するイメージは、恐らく、「努力」です。⇒確かに、オリンピック選手やプロの選手たちは、それこそ、幼い頃から、血のにじむような努力をしていますよね。ここの個所で語られている競技が、何であるか、パウロは詳しく述べてはいません。しかし、明らかなことは、勝負にこだわったものではないということです。だから、勝つとか、負けるなんていう言葉や、アイデアは一切、書かれていません。

それと同じように、私たちクリスチャンの歩みも、確かに、努力は必要ですが、他の人と比べる必要は全く無いし、勝ち負けを意識してしまうとしたら、それこそ、考え方がおかしいのです。

### ② 正しいルールにそって生きる！

非常に、興味深いのは、実は、この当時の、古代ギリシャのオリンピックでは、次のような 3 つの規定(ルール)があったそうです(この書簡が書かれた当時には、多少変えられていたが…)。まず第 1 に、生まれが重んじられたのです。それはつまり、奴隷では無く、自由人でないと、競技に参加できなかったのです。⇒それと同様に、私たちの働きも、まず、その方がクリスチャンになっておられないと託せない働きですよ。次に、経験が問われました。つまりは、10ヶ月以上、その競技のための、鍛錬をしている必要が

あったのです。…でない、大ケガをする可能性が高いからでしょう。⇒私たちクリスチャンの働きも、常日頃からの学びや訓練が必要です。最後3つ目に、ルールが重んじられました。当然のことですが、ルールを破って、良い成績を収めても意味が無いですね。⇒同様に、私たちにも、神様からのルールが与えられています。「何でも良いから、とにかく、やれば良い！」というのでは、決して、無いはずですよ。

### ③栄冠に目を向ける！

いずれにしても、こういった競技者たちは、何らかの栄冠であるとか…、具体的な目標を据えます。私たちクリスチャンも同様に、しっかりと目標を据えて…、天で与えられる宝を覚えて、神の業に励んでいく必要があります。何故なら、みことばが、私たちに約束してくれている栄冠(=ほうび)とは、この地上で得ることのできる如何なる物よりも、価値のある…、素晴らしいものだからです。そして、クリスチャンは、確実に、そのことを信じ…、期待する者であるからです。

## IV・農夫のイメージ⇒忍耐+収穫の恵み！(6節)

最後、4つ目のイメージは、“農夫”です。ここで、パウロは、そのことを通して、私たちに必要な忍耐と、忠実な者に約束されている収穫の恵みについて、教えるようしてくれています。今日のみことばの6節をお読みします。

6 労苦した農夫こそ、まず第一に収穫の分け前にあずかるべきです。

### ①忍耐を持つ！

この、農夫(=生産者)という働きは、決して、私たちの社会生活には欠かせないものです。確かに、華々しいものではなく、多くの人の目を引くようなものではないでしょうが、素晴らしい祝福に満ちたものであると言えるのではないのでしょうか。

ここ6節で、『労苦した農夫』とあるように…、私が言うまでもないですが、農夫の皆さんは大変です。…と言うのも、種を蒔けば、それで終わり…、ではないからです。暑さや寒さ、日照り、時には、大雨や台風の中にあっても、その働きを続ける必要があるのです。ある時には、一生懸命、努力をしたにも関わらず、全く収穫が得られずに、すべての働きが無駄になってしまうような時もあります…。

実は、そういった点において…、教会の働きも同じではないのでしょうか？確かに、人に福音を伝え…、人を教え導くということも、ある意味、重労働だと、私は思います。また、私たちの働きは、マタイ13章にあるように、人の心に、みことばの種を蒔く農夫のような働きであるとも言えます。どれだけ、多くの種を蒔いても…、一生懸命、お世話をしても…、ほとんど実を見ることができないようなこともあるでしょう…。でも、だからと言って、それで諦めていたのでは、農夫の働きは務まりません。諦めずに、忍耐をもって、種を蒔き続け…、芽を育てていく必要があるのです。農夫には、忍耐が…、継続が必要なのです！

### ②まず、第一に収穫の恵みに預かれる！

そのような…、大変な農夫の働きですが、彼らに与えられている祝福は、その収穫の実を、誰よりも早く…、また、最も美味しい形で、それらを味わうことが許されていることではないのでしょうか？皆さんも、ご存知のように、かつて、私は農業をしている時期がありました。農家の喜びというのは、何と言っても、その収穫の恵みに預かれるということです！しかも、誰よりも早く1番に…。

それと同様に、もし皆さんが、正しい態度で、教会の働きに加わってくだされば、くださるほど…、また、一生懸命、奉仕をすればするほど…、神様からの祝福も…、あなた自身が経験する喜びも大きくなります。当然のことですが、同じ、1人の人が救われたとしても…、その方が救われるために、長い間、祈り

…、様々な努力をした場合に経験する喜びと…、大して、気にも留めなかった場合とでは、その喜びや感謝には、大きな差があります。

成熟したクリスチャンは、そういったことを経験していくので、益々、主にあって、熱心に…、また、期待をもって、神である主と、人々に仕えていこうとするのです。いかがでしょうか？皆さんも、「救われた！」ということだけでなく、もっとも…、神の与えてくださろうとしている、恵みを頂こうとは思われませんか？どうぞ、ここにおられる全ての方が、みことばの教えるような、益々、成熟したクリスチャンとなっていただきますことを、心から願います。

そして、まだ、イエス様を信じておられない皆さん。天の神様は、あなたのことも救おうとしてくださっています。もしも、あなたが、神様からのお言葉である聖書のみことばに耳を傾けて、このイエス様のことを真の神、私の救い主として信じられるなら、あなたも救われます。どうか、1日も早く、真の神様を信じ、その神様に仕えてくださいますことを、心からお勧めいたします。最後に、祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。